
CAPD導入期患者への指導の検討 - 指導プログラム作成による セルフケア確立に向けての援助 -

井上美和、永井美香、門脇美穂、伊藤美幸
市立秋田総合病院 3 階北病棟

The examination of the guidance to the patient introduced the CAPD ~The help for the self-care establishment by the preparation of the guidance program~

Miwa Kawakami, Mika Nagai, Miho Kadowaki, Miyuki Itoh
North 3 Hospital Ward, Akita City Hospital

<はじめに>

CAPD患者は年々増加し、それに伴い高齢者や合併症及び身体障害を持つ患者の導入が増え、問題も複雑化してきている。当病棟では自立までの期間に何人もの看護婦が指導にあたっているが、指導方法の統一不足をはじめとしたいくつかの問題点があり、自立に時間を要し退院までの期間が長いという現状がある。

そこで、患者が早期で確実にセルフケアの確立ができるように、過去の指導上の問題点を改善した指導プログラムを作成し、一貫性のある導入期指導を検討した。

<研究方法>

期 間：平成11年4月～平成11年9月

対 象：A：平成8年5月～平成11年3月までに当科でCAPD導入した12例

B：研究期間中に導入した7例

展開方法：1. 対象Aのカルテ調査から指導上の問題点を考慮した指導プログラムを作成し対象Bに実施

2. 1の結果より対象A、Bの自立状況の比較

3. 研究期間中に検査入院した対象Aのうち7例と、対象Bに対し、今回作成した退院時総合評価表を用い質問調査を行い点数化して知識についての理解度を比較

<結果及び考察>

対象Aのカルテ調査から、1. 導入前にアセスメントが充分に行われておらず問題点の把握が不十分。2. 指導項目の具体的な開始時期、到達目標が不明瞭であり評価が充分に行われていない。3. 知識について自己学習に任せている点が多く理解度の確認が不十分。4. 術前に手技の

訓練を行っていないケースが多い。という問題点が挙げられた。また今まで使用していた評価表の活用不足という点については、無菌接合装置を使用している現在の状況に対応されていない内容が問題であると考えられた。そこで、これらの点を考慮した独自の指導プログラム（表1）を作成した。この指導プログラムは、一連の経過を示した表であり、更に、アセスメント評価（表2）、導入前指導（表3）、バック交換、カテーテルケア、シャワー浴方法、外泊、退院指導、と各指導項目毎の指導計画表で構成した。計画表は各項目、各段階毎に指導開始時期と指導内容、到達目標を明確に提示しているものを作成し、以上のプログラムに基づいた指導を対象Bに実施した。

表1 CAPD指導プログラム

	学習	実習	目標
OP前	腎臓の働き、CAPDの原理、腎不全についてパンフレット学習 CAPDビデオ鑑賞 他患者のバック交換見学	モデルを使いバック交換 必要物品について見学実習	腎不全、CAPDに対する理解ができる CAPD生活がイメージできる 不安が軽減できる
OP当日 ～1日目	看護婦のバック交換見学		CAPD療法に順応できる CAPD手順と手技と自己管理が習得できる
2～3日目	バック交換手順学習	除水量、注液量の確認	
4～5日目		看護婦指導下でバック交換	
6日目		一人でバック交換	
7日目	CAPDノート記録方法 腹膜炎について	実際にノートに記録	
8日目	カテーテル出口部の観察とケア学習	バック交換をすべて一人で行い報告	
9日目		看護婦指導下でカテーテル出口部ケア	
10日目		一人でカテーテル出口部ケアと観察	
抜糸後 14日目頃	シャワー浴の必要物品、点検項目 入浴用パウチの貼り方	看護婦指導下でシャワー浴 一人でシャワー浴	
	栄養指導（栄養士より） 外泊指導、退院前評価（テスト） 退院指導、外来受診方法	試験外泊 退院（家庭訪問）	退院後の生活に必要な知識を習得できる

表2 CAPD術前アセスメント

氏名	男・女	才	病名
職業		家族歴および 家族構成	
身体障害 なし あり ()			
性格		協力者:	
疾患に対する受け止め方			
理解力：問題なし 軽度あり 問題あり ()			
やる気：問題なし 軽度あり 問題あり ()			
アセスメント評価（問題点）			

表3 CAPD術前指導計画表

指導内容	到達目標	月日	評価
マニュアル本を配 付し以下を説明 ・腎臓の位置 ・腎臓の働き ・腎不全症状 ・腎機能の主なデータ ・CAPDの原理	腎不全、CAPDについて 説明により理解できる ・自分で位置が確認できる ・働きが2つ以上分かる ・症状が2つ以上分かる ・データを5つ以上理解できる ・原理を2つ以上言える		
CAPDビデオ学習 ・テルモ 「キャプディールと生活」 ・バクスター 「ツインバック操作手順」	ビデオを見てイメージできる		
・他の患者のバック 交換を見学 ・モデルを使って実 際に練習 ・バック交換の必要 物品、注意事項の 説明	・CAPDをより一層意識 することができる ・流れがおおまかに分かる 必要物品が分かる 清潔、不潔が分かる 各部の名称が分かる		

対象Bの自立状況を対象Aと比較すると、バック交換、カテーテルケア、シャワー浴方法ではそれぞれの指導開始日と自立期間の短縮がはかられ、導入から退院までの期間が、平均で12.9日短縮された結果（表4）となった。これは、指導の開始時期と到達目標を明確に示したことで、自立状況の客観的評価ができ効率的な指導を進めていくことができたのではないかと考えられた。また自立に向けてアセスメント評価を実施したことにより早期に個々の問題点が明確となり、それに応じた指導ができたことや、術前に手技の訓練を実施したことで、導入後に戸惑うことなく機械の操作訓練を開始できたことが、自立期間の短縮につながったと考えられた。以上のことから、早期に技術の面で、自立をすることができたのではないかと考えた。

表4 対象A、Bの自立状況の比較

	対象Aの平均	対象Bの平均	対象Aに対する対象Bの結果
平均年齢	57.5才	64才	
男女比	男9 女3	男5 女2	
導入から退院までの期間	40.2日	27.3日	12.9日間短縮
バック交換の自立期間	12.8日	5.7日	7.1日間短縮
カテケアの自立期間	5.6日	4.1日	1.6日間短縮
カテケアの指導開始日	術後11.5日目	術後9.6日目	1.9日短縮して指導開始
シャワー浴指導開始日	術後22日目	術後15日目	6日短縮して指導開始
シャワー浴指導回数	3回	2.2回	0.8回短縮
抜糸日	術後12.1日目	術後14.1日目	2日遅く抜糸施行

また知識の面については、展開方法3の対象A Bに質問調査を行い比較した。退院時総合評価表（表5）の内容では、高齢者や理解力に問題があるケースの導入を考慮し、基礎知識面と自己管理面に分け必要最小限の簡単な項目で作成した。解答できるが1点、解答できないを0点と点数化し、複数解答となるため、総合では42点満点となる。対象A Bの質問調査の結果を基礎知識及び自己管理面に分けて平均点を比較すると、対象A B共に遜色のない結果（表6）となった。特に自己管理面では、すでに在宅でのセルフケアが確立している対象Aのほうが高得点と予測していたが、対象Bでも同等の知識を習得している結果であった。

表5 退院時総合評価項目

項目	点数
1. 腎臓の位置	2
2. 腎臓の働き	6
3. CAPDで代行できる働き	3
4. 腎不全の症状	11
5. 必要物品、バック交換環境、保管場所	3
6. 腹膜炎の症状	4
7. カテーテル出口部ケア方法と観察項目	5
8. トラブル対処方法	5
9. 基礎体重	1
10. 1日の水分量、塩分量	2
合計点	42点

表6 対象A、Bの退院時総合評価表の比較結果

	基礎知識面	自己管理面	総合評価
対象A 最高点	15	14	29
最低点	6	10	17
平均点	10.6	12.6	23.1
対象B 最高点	14	18	30
最低点	7	6	13
平均点	10.5	13	23.5

これは、自己学習に任せずに計画的に指導を進めて理解度の確認ができたことで、学習への動機づけができ、技術を習得するに伴い知識についても理解が深められた結果ではないかと考えられた。ただし、総合評価の低い対象に対しては、点数の低い項目の補習が不可欠となった。

総合評価を実施することは、理解度の客観的評価を行うと共に個別性のある指導の場となり、退院に向けて必須の指導項目と考えられた。最後にまとめとして、退院指導を行うことで最終的な自己管理法の習得へと導いた。

以上のことから、結果的に導入から退院までの期間が短縮されると共に、より確実な状態で在宅医療へ移行することができたと考えられた。

<結 論>

今回作成したCAPD導入期の指導プログラムに基づく一貫した指導方法は、患者が早期に確実なCAPD療法の知識や技術、自己管理法を習得でき、セルフケアの確立ができたと考える。

参 考 文 献

1. 小野寺杜紀：セルフケアとは、臨床看護4 Vol.20 No.4、1994
2. 土肥順子：クリテカルパスの作成－CAPD編－、透析ケア Vol.5 No.5：73-78、1999
3. 犬塚信子：CAPD導入期指導、透析ケア Vol.3 No.3：14-20、1999
4. 仁科 良：導入期患者への説明－腹膜透析の場合－、透析ケア 1999 夏期増刊：112-115、1999
5. 田辺亭史：バック交換手技、透析ケア 1999 夏期増刊：117-119、1999
6. 佐藤昭子：腹膜透析患者の導入期生活管理とその援助、1999 夏期増刊：165-167、1999
7. 小中節子：腎不全看護領域の専門性(3)、CAPD臨床透析 Vol.13 No.3：81-84、1997
8. 正津 晃 他：新図説臨床看護シリーズ 成人看護4、学研
9. 田畑勉：CAPDセルフケア、(株)診断と治療社